

た と え  
嵐 が  
来 な い  
と し て も

WHETHER  
THE  
WEATHER  
IS FINE

WHETHER THE WEATHER IS FINE  
Daniel Padilla, Rans Riful and Charo Santos  
A film by Carlo Francisco Manatad  
出演：ダニエル・パディリア ランス・リフォル チャロ・サントス  
監督／脚本：カルロ・フランシスコ・マナタッド

foggy

おれはただ  
このみじめな場所から抜け出したいんだ  
おまえと母さんと一緒に

“野心的で奇妙なドラマ” The Film Stage (米)  
“シュールな災害ドラマに胸が熱くなる” NME (英)  
“フィリピン映画の最高傑作” Smash Cut (米)

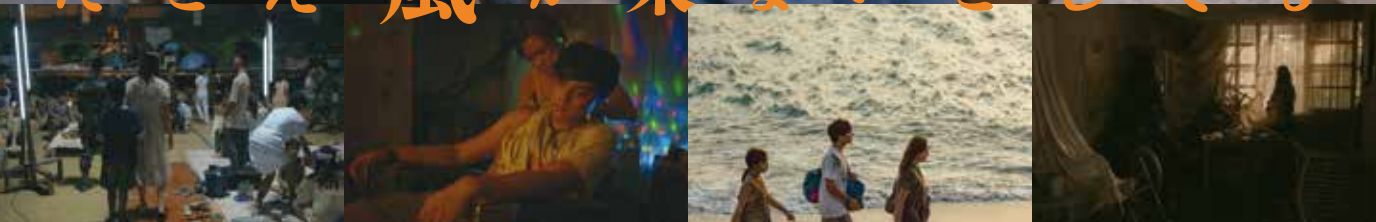
史上最大の台風が  
海岸沿いの町を襲った。

ミゲルは  
大都会へ逃げる決意を固め、  
再び嵐が近づく前に  
母ノーマと  
愛するアンドレアを  
見つけ出す。

2013年、史上最大の被害を残した台風ハイエンと残された人びとの希望の物語

# たとえ嵐が来ないとしても

9.14 Sat~  
渋谷 シアター・イメージフォーラム  
9.21 Sat~  
大阪 第七藝術劇場  
名古屋 シネマスコレ  
3都市限定公開!



2013年11月8日、観測史上最強の台風がフィリピン東部に上陸し、私の故郷であるタクロバンの大部分が破壊された。

だから私は、台風の余波を題材にした映画を作ることにした。息子と母親、そして彼らのコミュニティの物語を通して、私自身の人生と故郷が破壊された奇妙な軌跡をたどる。観客が登場人物の意識と生存への闘いに没頭できるよう、筋書きは意図的に最小限に抑えた。理由もなく自然災害に多くを奪われた無意味さの果てに、登場人物たちは否応なしに自分たちの正義感を失っていく。生き残るための絶望的な闘いの中で、人間性や道徳観は侵食され、自分を救うためには他者を減ぼさなければならぬ。誰も無垢ではいられないのだ。

不条理な状況にもかかわらず、この映画は決して空想的ではなく、現実に根ざしている。不条理とシュールなタッチの表現、そしてノアの方舟を彷彿とさせる、地獄からようやく出ようとする人々は、登場人物たちが経験している混乱と無秩序の感覚を呼び起こすために、疎外感を演出することを意図している。この映画は人間対自然の奇妙な関係をバランスよく描いている。人間は自然を破壊し、自然はそれに反応する。

自然は人間を破壊し、人間は苦しむが、破壊の間に自然は人間を育て、その逆もまた然りである。

この映画はまた、信仰がいかに変化に影響を与えるか、変化する可能性があるか、不条理で、愚かで、芝居がかかっていて、ヒステリックかもしれないが、信仰がいかに生き残ることに寄与するかを大いに検証している。信仰は、登場人物の超越の形、純粋な回復力への意欲、そして間違いなく誰もが生き残ろうとする意志につながる。

『たとえ嵐が来ないとしても』もまた、フィリピン映画界で代表的ではない言語であるワライ語に場所と声を与えている。このような露出の欠如は、ワライ語の文化的発展と経済的進歩の両方が、国の発展から大きく遅れをとっていることを反映している。この映画は、都市生活のトラブルや不道徳に悩まされながらも、道徳主義的な偏狭な信仰や迷信の体系に凝り固まった、タクロバンのような発展途上の都市部の地域的な複雑さを詳らかにしている。

『たとえ嵐が来ないとしても』は、私たちが今の時代に議論することが重要だと

考える意識と事件を表現している。この映画を通して、壊滅的な被害が"コミュニティ"を変えただけでなく、人間性全体を変えたということを理解することができる。そして最終的に、愛、夢、そしてサバイバルの本質を定義するのだ。

Carlo Francisco Manatad

監督:カルロ・フランシスコ・マナタッド

マニラを拠点に活動する映画監督、編集者。フィリピン大学映画学部卒業。短編「Junilyn Has」がロカルノ映画祭、短編「Jodilerks Dela Cruz, Employee of the Month」がカンヌ映画祭批評家週間、短編「The Imminent Immanent」がトロント国際映画祭で上映され、フィリピンを代表する若手監督として世界から注目を浴びる。フィリピンで最も人気の編集者でもある彼は、インディーズからメジャーまで国内外の多くの監督の作品を手がけてきた。Asian Film Academy、Berlinale Talents、Talents Tokyo、Locarno Filmmakers Academyの修了生。『たとえ嵐が来ないとしても』は初の長編監督作。

【ストーリー】台風ハイエンが町を襲った影響で、宗教狂信者、自暴自棄者、犯罪者、逃げ惑う動物たちが町に野放しになった。ミゲルは無気力な青年であったが、恋人アンドレアと母ノーマという2人の女性を探し出すために廃墟を歩き回る。二人を見つけるとミゲルは、この町は危険だから去ろうと説得をする。嵐の到来という新たな噂が浮上し、脱出のための時間が徐々になくなっていく中、彼は愛する二人を説得するために留まるか、自分ひとりで町を出るかの決断を迫られる。

たとえ嵐が来ないとしても

原題: Kun Maupay Man It Panahon 英題: Whether the Weather Is Fine

監督・脚本:カルロ・フランシスコ・マナタッド(初長編監督作品)

出演:ダニエル・パディリア、ランス・リフォル、チャロ・サントス

2021年/フィリピン/104分/ワライ語/字幕:日本語、英語

配給:Foggy 助成:国際交流基金マニラ日本文化センター

movie.foggycinema.com/tatoearashi

TikTok @foggyjp Instagram @foggyjapan

X @foggyjp Facebook @foggyjp



JAPAN FOUNDATION

